

養育里親

～もうひとつの家族～

25

坂口 伊都

はじめに

新学期を迎え、子ども達の学年もそれぞれ一つ上がりました。里子の担任が別の学校へ赴任して行き、児童相談所の担当ワーカーも交代になり、また一から積み上げていくスタートになりました。里子が来てから4回目の新年度にもなると、この子の行動にパターンがあると気づきます。最初は張り切るのか、学校で役に立つように頑張ります。先生も問題なく過ごせて安堵しますが、その後いろいろな行動を開始させます。それが始まるサインが、靴のかかをを踏む、自分の好きに学校にモノを持って行く、学校の場所を自分のモノで占領していく3つです。

中学2年生になって初めての授業参観に行くと、ハイカットスニーカーの上靴のかかをを片方だけ踏んでいました。昨年度、靴のかかをを

踏まないように担任の提案でハイカットスニーカーにしました。そのかかとを踏まずにきていましたが、今年度は片方だけ踏んでいました。かかとを踏む方が大変だろうという姿勢になっています。それだけでなく姿勢が悪く、背骨に影響が出ている可能性があると言われ受診したこともあるので、靴を踏むこと自体この子の健康にも悪影響を与えます。里子には、靴をちゃんと履こうねと伝え、里子に聞こえるように先生に今までの経過とこのまま履かないようなら連絡帳に書いて下さいと伝えました。連絡帳に靴のかかををふんでいるとは書いてなかったので、皆が知っていると言われると逆らうようなことをしなくなる行動は、今も継続しています。

先ほどの3つの行動には、里子が自分の思い通りにしようとする意図が見え隠れしているように見えます。自分の思いを優先させられていると感じると有能感が出るのか、安心するのか、落ち着くようです。この子が我が家に来るより

も前から同じことを繰り返していたようで、その行動は癖についていて、なかなか外せないのだからと思います。この行動を取り続けていても、辿り着くところは先生に叱られたり、クラスメイトから敬遠されたりと不快なことを招くのですが、癖になっているパターンをやめるのは難しいようです。

いつもと違うのは、里母の言葉を少し受け入れようとする姿が見えてきたことです。この子に親切心は通用しないので、自己決定をできるような声かけをしています。例えば、春先の気温が低い日に上着を着せようとした時に以前は「今日は寒いから上着を持っていき」と伝えていたのですが、最近は「今日は寒いね。寒い日になるらしいよ。上着持って行かなくていい？ どうする？」と言うと、基本は人の言うことを聞きたくないので上着の前を素通りするのですが、3歩ぐらい過ぎてからUターンをして手に取っていきます。上着を持って行かないで終わると、人の親切を踏みにじって腹が立つ、寒い思いをしたらいいと意地悪な気分になりますが、持って行くと受け入れられたように感じて嬉しくなります。この差が、日々の生活の中にあるとないのでは、モチベーション維持に大きな違いがあります。本当に些細なことでも、この子と意思疎通ができたと私自身が感じられれば頑張れます。

こうした里子の変化を感じ始めるようになると同時に、他の家族について気づかされることが増えてきます。今回は、家族のそれぞれの想いについて書いていきたいと思います。どうぞ最後までおつきあい下さい。後に出てくる写真は、里子が育てた花たちです。愛でてやってください。

責めてくる娘

家族の中で一番会話をしているのは、高校3

年生になった娘です。娘とは一緒に里親・里姉としての体験を皆さんの前で話す機会を何回かいただきました。その講演会がある度に、娘の本音に触れてドキッとしています。今回は何を言われるのやらといつもハラハラが止まりません。

講演中に里子を我が家に受け入れることを今なら賛成するか、反対するかを尋ねたところ、娘は「賛成とか反対とかそういう次元の問題ではない」と答え、私が抱いていた気持ちを娘が言い当ててしまいました。自分達が誰かのために何かできそうならするし、一旦引き受けたら簡単に手を離すことはできない、そういうものだど悟っている様子でした。まだ17年しか生きていない高校生が、こんな風を感じて表現をすることに心底驚きました。それと同時に私自身がとても愚かだと感じました。私が第三者にこの感覚を伝えたくても、上手く表現できずにモヤモヤした感覚を抱きながら過ごしていたので、里姉という立場で、同じ心境に至っていることに衝撃を受けました。私は里母で、請け負うものも大きいと勝手に思い込み、里姉は里親家庭として背負うものがそこまで大きくなく、嫌になれば高校や友達に気持ちを向け、もっと気軽に過ごせる立場だと思っていましたが、違っていたようです。自分だけがしんどさや辛さを背負っている気になっていたことを恥じました。私は、いつまで経っても何もわかっていない情けない親です。

そして、最近よく娘から責められることが増えました。娘は、「皆してお兄ちゃんの話ばかりする。私が頑張っても褒めてくれない、私を見てくれない」と訴えます。もちろん、そんなつもりは毛頭ありません。勉強を頑張れば、娘の欲しい本をプレゼントとすると、こんなに買ってくれるのと喜んでいましたし、家のそばにないコンビニで娘の好きなアニメのコラボレーション商品があるから行きたいと言えば、車で

出かけ、お目当ての商品がなければハシゴをしてみつけたこともあります。その時は、娘が興奮して付き合ってくれてありがとうと言っていました。でもそれは、娘にとってつい最近のことで、それよりも前の時期に対して娘は不満を持っているそうです。

確かに兄に手を焼いて心配した時期がありました。同時期に里子もいろいろ問題を起こしていて、それだけで手一杯になっていました。娘は、手堅く行動していたので、安心していても事実です。親として辛い時期でしたが、娘にとっても同じようにしんどい時期だったようです。その頃、娘もしばしば怒ったり拗ねたりしていて、それ程我慢しているようにも見えなかったのですが、その判断は甘く娘は不満を抱えていたとわかりました。子どもの気持ち親知らずなのですね。

娘は、里子に文句を言ったり、怒ることもありますが、里子は里姉が大好きなように見えます。遠くに里姉が見えれば、「お姉ちゃん」と叫んで手を振っていますし、電車のイベントに2人で出かけたこともあり、その時も里姉の言うことを聞いて行動していたそうです。だからと言って、里姉にベタベタとくっつきに行くわけではないので、里子にとって里姉は程よい存在としているようです。

その里姉を里子が怒らせた事件がありました。里子が令和になった日に「髪を切りたい」と言い出し、「ヘアースタイルをツーブロックにしたから母ちゃん床屋に連れて行って欲しい」と言い出しました。5月1日に行ったことがない

床屋に連れて行き、自分で注文できるのか心配しながら見ていましたが、強面のおっちゃんに「ツーブロックにしたい」と言っていました。その強面のおっちゃんは、実はとてもやさしく、そして的確に里子から言葉を引き出し、借り上げの長さも3mmとすぐに決まっていきました。里子がドキドキしながら髪を切ってもらっているのが伝わってきました。仕上げに入りおっちゃんは、里子にこれでいいかと手鏡を使って確認し、振り向きざまに私にアイコンタクトでこれでいいか確認しました。私はうんうんと頷いてお礼を伝えました。この手際のよさ、的確な言葉がけ、プロだなあと感心しました。里子にかっこいいね、良く似合っているよと伝えると嬉しそうに笑っています。

話を元に戻しましょう。娘が怒った理由は鏡を里子が勝手に持ち出したことにです。娘の部屋に鏡がない事に気づき、家のあちこちを探していました。里子にも声をかけましたが知らないという返事。娘が1階に降りて自室に戻ると洋服掛けの隙間から鏡がみつかりました。そこは、すでに何回も探していたので、みつかるタイミングが不自然です。鏡を里子が欲しがるとイメージがなく、猫がどこかに持って行ったのかもとも思いましたが、現状から里子がしたと考えることが妥当です。そして、よくよく考えると里子は今日、床屋に行き帽子を買ってもらいました。娘と2人で、「見たかったのね」となりました。娘は、この探し回った時間を返して欲しいとイライラしていました。里子が、娘の部屋に黙って入ってはいけないという約束も破っ



ていることがわかります。娘には、自分の部屋に入るなどということ、鏡を見たければお姉ちゃんに貸してということ、鏡を見たければお姉ちゃんに貸してということを里子に伝えるように言いました。娘は、私が言わなければならないの？と渋い顔をしていましたが、部屋に入れたくなければ、まずは当事者であるあなたが伝えることが大事だと思いと話しました。改めて父からも言ってもらうからと伝えると、娘も納得しました。

里子と取った取らないからの話から始めると取っていても取っていないと言い張るので、話しが前に進みません。この現状からあなたしかいないという前提で、まずは「あなたがしたことを私は知っている」と伝えることが大切です。隠し通そうとすると嘘の上塗りになるので、「知っているよ」を里子にわからせているところです。知っている上であなたに向き合っているから隠す必要はない、だから落ち着いて話そうというイメージです。これは、押しでも引いても上手くいかない悪循環から導き出した道です。

娘は、里子を面倒くさいけどほっておけない存在だと言っています。また、私の感じていることを言い当てられた気持ちがしています。

家族の言葉

前にも書きましたが、里親になることで夫との関係バランスの感覚を掴むことが一番難しい課題のように感じます。里子が家族に加わることで、夫の新たな一面を知ってしまった気がします。また、それが私のイライラにつながっていき、夫が何故そのような行動を取るのかわからなくなることで多く出てきました。実子との間では問題がないことでも、里子を介することで問題になっていくことが多く起こってきます。家に帰ってまで気を遣ってられないのはわかりますが、夫の気が抜けた時の行動が、里子の

行動問題を起こすきっかけになっていくので、そのままでは家の中が回りません。そのことを夫に訴えかけても、夫にはピンとこないようですが、夫はおっとなりにはわからないながらも努力をしているそうです。

夫は、年齢的に仕事も忙しくなり、帰りが遅い日が続くようになりました。あまりに帰りが遅い日が続くので、身体の心配をしています。少しは自身の健康に気を遣って欲しいと思うのですが、夫は自身の健康管理に無頓着に見え、余計にイライラします。

夫とは夫婦である他に子ども達の父親でもあり、里子を育てていくパートナーなので、協力をしてやっていきたいと願っているのですが、同じ方向を向けているのかどうかわからなくなっていました。そうなっているのは、私のやり方が悪いからなのかとも考えました。一人で考えても煮詰まるだけなので、1人暮らしをしている息子に父親がどう見えるのか尋ねてみました。息子は自分のことで手一杯の時期で答えてもらえなくても仕方がないと思っていたのですが、真摯に受け止めて答えてくれました。「父は介護の仕事がとても大変で疲れているだろうし、誰も悪いわけではなくて、周りの反対もあったのに里子に賛成してくれたのはすごいなと思ったよ」と言ってくれました。息子が里親のことを語ることは、ほとんどなかったのが驚きました。同時に息子の言葉の重みを感じました。反対もあったけど、夫は里親になることを引き受けてくれたのだと思い出しました。それにしても、息子の言葉は大きく重いのだと改めて知りました。子どもは、親のことに無関心のように見えて、よく見ているのですね。

息子が1人暮らしを始める時に、私から手紙を書きました。息子は、里親になることに賛成してくれましたが、多くを語らない子なので、里親になってから何も語りませんでした。娘同様、息子にも嫌な思いをさせたこともあると思

うので、嫌な思いをしたこともあったでしょうと謝罪しました。いろいろと心配をかける子だと思っていた息子も知らない間に成長していました。

子どもの言葉にはハッとさせるものがあり、私の気持ちを動かしました。息子からの言葉を夫にも伝えました。子ども達は、父に感謝し父の存在を認めています。夫は、そういう人なのだとわかったような気がします。夫も息子も人生の中でさまざまな葛藤と向き合っている時期です。自身のことで精一杯の中、家族に目を向けようとしてくれました。有難いことです。後は、夫婦として父母としてどう程よいバランスを見つけていけるかという課題を私たちはもっているのでしょう。

終わりに

里子と出会って、家族の在り方を問われているようです。最初は、里子の理解、関係をどう作っていくかで迷路にはまりました。その状況下では、上手くいかないことが続き、里子を含めて家族全員が傷ついていきました。親に余裕がなく、子ども達にもしんどい思いをさせていたのだなと感じます。里子とのかかわり方が少し見え出して初めて他の家族のことが見えるようになってきたのだと思います。

里子は、言われたことに対して逆らうという癖がついています。床屋に連れて行ってという話をしましたが、平つば帽子が欲しいとも言っていたので、帽子が多く置いてある A に行こうと誘ったのですが、「そこは嫌や B がいい」と言います。「B は、もう飽きたと言っていたのでは？」と尋ねても「B の方がいい」と譲りません。本人がそれでいいなら B に行こうとなっていたのですが、いざ出発すると里子が「どこに行くの？ A に行かないの？ 帽子がいっぱい売っているの

でしょう」と言います。「えっ？ B がいいと言ったじゃないの」「えっ、言っていないよ」となり、娘と顔を見合わせました。「言っていたよ。言われたことの反対を言いたくなるころあるでしょう。それを気をつけないと、他の人とトラブルになって、あなたの周りから優しい人がいなくなってしまうよ。あなたはいい子なのだから、もったいないよ」と伝えました。里子もわかっていない間にトラブルになるようなことをしていたようです。まずは、落ち着いて考えられるようにしていくことが大事だと感じます。周りの大人を信じ、言われたことを少しずつ時間をかけながらも受け入れようとし始めています。里子が、何かをしようとする時、隠れなくてしようとしなくてもいいと感じられるようになればいいなと思います。学びは、薄っすらと積み重なっていくものようです。

